

**M-AUDIO®**



**torq xponent**

**Advanced DJ Performance/Production System**

**日本語**

**ユーザーズ・マニュアル**

はじめに	3
製品パッケージ内容	3
<b>Xponentの特徴</b>	4
<b>最低システム必要環境</b>	4
オペレーティング・システム	4
Windows	4
ハードウェア	4
Windows	4
Macintosh	4
<b>インストールの方法</b>	5
<b>コントローラとコネクタ</b>	5
リアパネル	6
トップパネル	7
フロントパネル	10
<b>Xponentを使用する</b>	11
TorqでXponentを使用する	11
Default MIDI Map (MIDIマッピングを初期設定に戻す)	11
Synch LEDs (On/[Off])	11
Meter Source (Channel/Master)	11
XponentをTorq以外のソフトウェアで使用する	12
Xponentのコントロール・パネル	12
PC	12
Mac	12
<b>トラブルシューティング</b>	13
<b>付録A : Xponent MIDI CCデフォルト</b>	14
付録A : Xponent MIDI CCデフォルト (続き)	15
付録A : Xponent MIDI CCデフォルト (続き)	16
<b>付録B : トラックパッドを使用してTorqのエフェクトをコントロールする</b>	17
ディレイ	17
リバーブ	17
フランジャー	17
フェーザー	17
デュアル・フィルタ	18
ディストーション	18
サチュレーション・モード	18
サンプリングレート・モード	18
ストロボ	18
リバーズ	18
ブレイク	18
リピート	18
<b>技術資料</b>	19
<b>製品保証</b>	20
保証規定	20

## はじめに

## 1

M-AudioのXponent USB MIDIコントローラ/オーディオ・インターフェイスをお買い上げ頂き誠に有り難うございます。この革命的な製品によりデジタルDJへ従来のDJミキサーやCDJのノブ、スライダ、ホイール等と同様の機能性を提供し、同時に最新DJソフトウェアのパワーをも得ることができます。Xponentには、高品位なオーディオ・インターフェイスにトラックパッドが装備されているため、コンピュータやマウスに触れずにDJソフトウェアをコントロールすることができます。軽量で持ち運びに便利なMIDIコントローラはUSBケーブル1本でコンピュータへ接続することができるため、コンピュータのシャーンを開ける必要もありません。

本ユーザーガイドは、Xponentの特徴や機能について詳しく説明していますので、DJ経験が豊富な方もよくお読みになり知識を深めるために役立てて下さい。また他社のDJソフトウェアとXponentで使用方法については、ご使用になるDJソフトウェアの取扱説明書を合わせて参照して下さい。ご使用の機材についての実用的な知識を深めることにより、Xponentをより一層楽しく活用することができます。

Xponentには、Xponentとシームレスに統合するようにデザインされたSynchroScienceの高機能DJソフトウェアであるTorqが同梱されています。Xponentは、ASIOまたはCoreAudio対応のソフトウェアでも使用することができますが、本ユーザーガイドでは同梱されているTorqを使用して用例や図解を紹介しています。本ユーザーガイドの用例を理解するためにもTorqのインストールを推奨します。

## 製品パッケージ内容

## 2

Xponentの製品パッケージには以下の製品が含まれます：

- Xponent USB MIDIコントローラ/オーディオ・インターフェイス 1台
- Torq CD-ROM (Torqソフトウェア、Xponent用ドライバ、関連書類を含む) 1枚
- USBケーブル 1本
- 12VDC 1000mA電源アダプタ 1台
- 製本版クイックスタートガイド 1冊

## Xponentの特徴

# 3

Xponentの特徴は以下の通りです：

- オールインワンのデジタルDJソリューションにコントローラ用入力とオーディオ出力を統合
- ノブ20系統
- 縦型フェーダ4系統
- 横型クロスフェーダ1系統
- バックライト付きボタン75個
- タッチセンシティブなスクラッチ・ホイール2系統
- 2マウスボタンを装備したトラックパッドを統合
- SyncroScience Torq DJソフトウェア同梱

## 最低システム必要環境

# 4

### オペレーティング・システム

#### Windows

Xponentは、Windows XPホーム/プロフェッショナル・エディションのService Pack2以降をサポートします。Windows XPメディアセンター・エディションは現在のところサポートされません（2007年5月現在）。また、Windows 2000/98/Meもサポートされません。

Windows Vista対応のドライバ情報は<http://www.m-audio.jp/>でご確認下さい。

MicrosoftによるWindowsアップデート情報のウェブページを参照し、最新版のアップデート/修正がインストールされていることを確認して下さい。

#### Macintosh

XponentはMac OS X 10.3.9/10.4.7以降をサポートします。それ以前のバージョンはサポートされません。

### ハードウェア\*

#### Windows

- Pentium III 500MHz（ノートパソコンではより高速なCPUが必要です）
- 256MB以上のRAM
- コンピュータに搭載されたUSB端子

#### Macintosh

- Macintosh G3\*\*800MHz / G4\*\*667MHz（ノートパソコンではより高速なCPUが必要です）
- 256MB以上のRAM
- コンピュータに搭載されたUSB端子

\*ご使用になるソフトウェアの最低システム必要条件が上記よりも高い場合がありますのでご確認下さい。

\*\*CPUアクセラレータカード搭載機はサポートされません。

## インストールの方法

## 5

Xponentの機能を全て使用するにはドライバをインストールする必要があります。同梱されている製本版クイックスタートガイドを参照してドライバのインストールを行って下さい。

ドライバのインストールが終了したら、DJソフトウェアでXponentへデータを送受信できるよう設定する必要があります。設定方法についてはご使用になるDJソフトウェアの取扱説明書を参照して下さい。

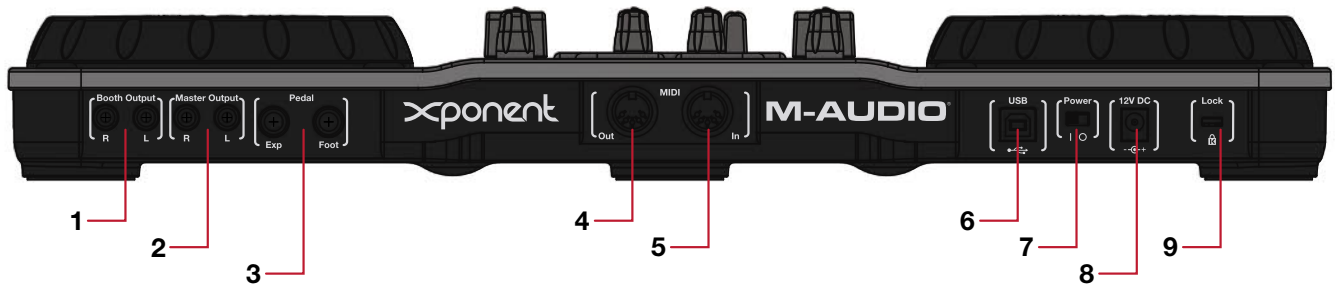
## コントローラとコネクタ

## 6

XponentはCDJ 2基を搭載する一般的なDJミキサーの様に見えますが、実際ほぼすべてのコントローラは特記のない限りMIDIノート/MIDI CCデータが送出されることを心にとめて置いて下さい。


**重要：**Xponentの電源をオンにする時、Xponentの各コントローラに触れないよう注意する必要があります。Xponentの電源をオンにすると自動的に本体の調整を開始するため、この時点で各コントローラに触れると各コントローラが予期せぬ動作をする原因になります。各デッキのプログレスメータには自動調整の状態が表示（左から右へ順次点灯）されます。プログレスメータのLEDがすべて点灯すると、Xponentに搭載されたプログレスメータ以外のLEDも全て点灯しXponentが使用可能な状態であることを示します。

## リアパネル

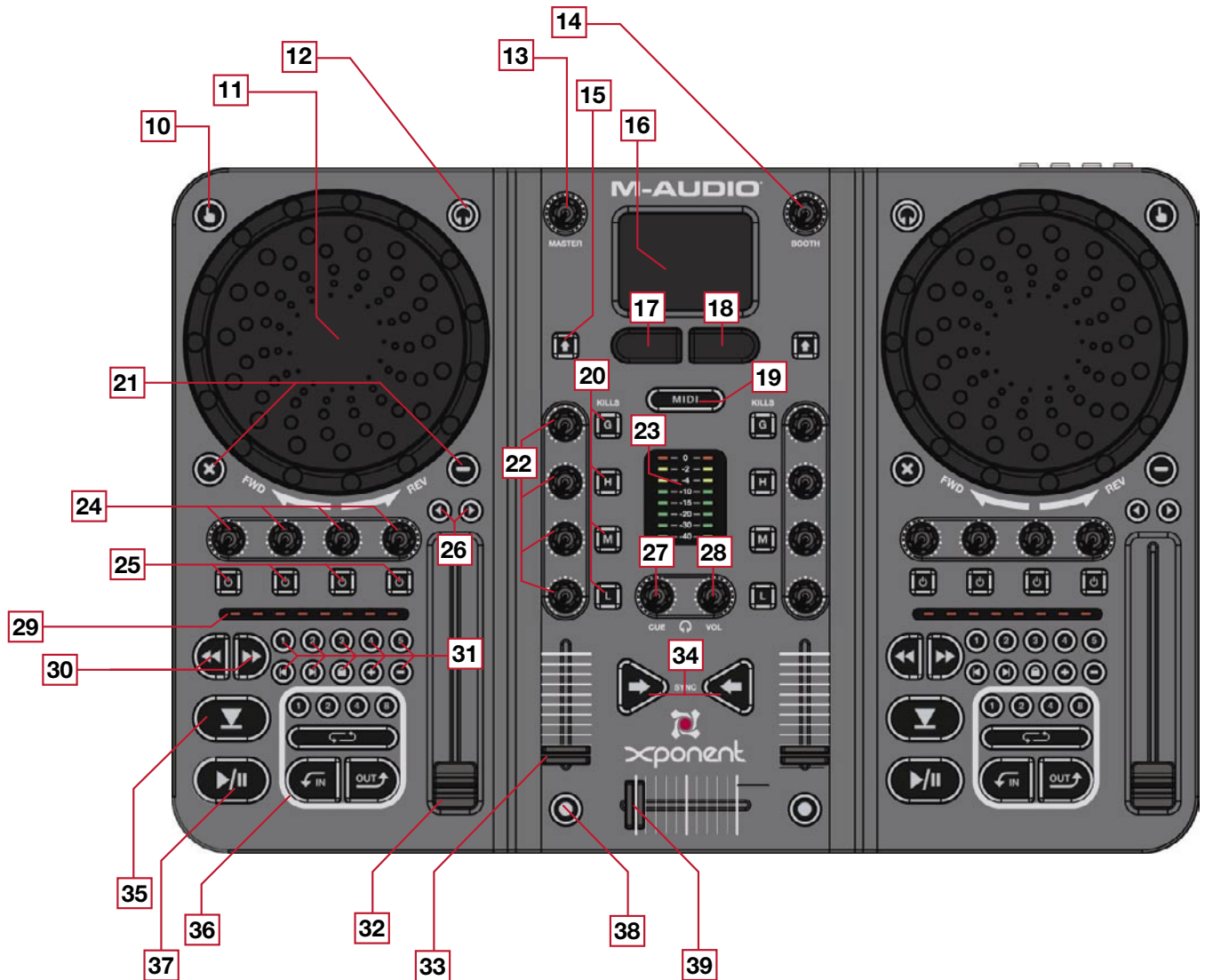


1. **Booth Output (ブース出力)** – 会場に独立したDJブース（モニタースピーカーが設置）設備がある場合、このRCA出力端子はDJブース内のパワードスピーカーやパワーアンプと接続します。ブース・ノブ（14）でブース出力のボリュームをコントロールすることができます。
2. **Master Output (マスター出力)** – このRCA出力端子は、クラブ、スタジオ、会場等のメインのサウンド・システムと接続します。マスター出力のボリュームは、マスター・ノブ（13）でコントロールすることができます。
3. **Pedal Inputs (ペダル入力)** – この1/4入力端子は、フットペダルを接続してDJソフトウェアをコントロールすることができます。フットスイッチ用入力端子とエクスペリション・ペダル用入力端子がそれぞれ装備されています。
4. **MIDI Output (MIDI出力)** – このMIDI端子は、標準的な5ピンのMIDI出力端子でMIDIデータをMIDIキーボードやドラムマシン等の外部MIDI機器へ送信することができます。このMIDI端子は以下の2つのモードで動作します：
  - **ホスト・モード** – ホスト・モードでは、コンピュータのMIDIシーケンシング・ソフトウェア等により生成されたMIDIメッセージを転送します。**Xponentがコンピュータと接続されている場合にホスト・モードで動作します。**
  - **サーフィス・モード** – サーフィス・モードでは、Xponentに搭載されたボタン、ノブ、ホイール、スライダ等により生成されたMIDIメッセージを転送します。**Xponentがコンピュータと接続されていない場合にのみサーフィス・モードで動作します。**
5. **MIDI Input (MIDI入力)** – このMIDI端子は、標準的な5ピンのMIDI入力端子でMIDIキーボード/コントロール・サーフィス等の外部機器で生成されたMIDIデータを受信します。MIDI出力端子（4）と同様に、このMIDI入力端子も以下の2つのモードで動作します。
  - **ホスト・モード** – ホスト・モードでは、MIDI入力端子で受信するメッセージをコンピュータのDJソフトウェアやMIDIシーケンシング・ソフトウェア等へ転送されます。Xponentがコンピュータと接続されている場合にホスト・モードで動作します。
  - **サーフィス・モード** – サーフィス・モードでは、外部MIDIソースからのMIDIメッセージはボタンやメータの下のライトをコントロールするために使用します。初心者向けの機能ではありませんが、MIDIプログラミングを行うことができる「パワーユーザー」にとってはこの機能が役に立つ場合があります。M-AudioではSDKを用意する予定です。
6. **USB端子** – 同梱されたUSBケーブルを使用してXponentをコンピュータと接続します。これにより、コンピュータとオーディオ/MIDIの送受信を可能とします。
7. **電源スイッチ** – このスイッチによりXponentの電源のオン/オフを切り替えます。

**重要：** Xponentの電源をオンにした直後に本体に触れないよう注意して下さい。

8. **DC電源アダプタ端子 (12VDC、1000mA)** – 同梱された電源アダプタを接続してXponentに電源を供給します。
9. **Kensington盗難防止ロック用端子**  – この端子には、盗難防止用のKensingtonロックを接続します。

## トップパネル



**注意：**Xponentのトップパネルは左右に全く同じコントローラが装備されています。上図では左側のコントローラだけに番号を付けて識別し以下に分かりやすく説明します。特別な注意書きがない限り右側のコントローラはそれぞれに対応する左側のコントローラと同じ機能を持ちます。


**注意：**以下では、Xponentに同梱されたパワフルなDJソフトウェアであるSynchroScienceのTorqソフトウェアでXponentを使用した場合のノブ、ボタン、スライダの機能を説明します。Xponentをその他のDJソフトウェアで使用する場合は、ノブ、ボタン、スライダのマッピングについての詳細は、使用する各DJソフトウェアの取扱説明書を参照して下さい。

10. **タッチセンシティブ有効化ボタン** – このボタンは、スクラッチホイール（11）のタッチセンシティブ機能の有効/無効を切り替えます。タッチセンシティブが有効な時はバックライトが点灯します。

11. **スクラッチホイール** – 指での回転やタッチに反応するデュアルパーパス（2つの目的に使用する）ボタンです：


- このホイールは、回転している間に相対的なMIDIメッセージを送出するオプティカル・エンコーダが搭載されています。Torqは、このMIDI情報を使用して各デッキのスピードや再生の方向をコントロールします。このホイールは、キューイングやスクラッチにも使用できます。
- タッチセンシティブ有効化ボタン（10）が有効の時、各ホイールから手を離れた瞬間にMIDI「ノートオン」メッセージが送出されます。スクラッチホイールに触れると音楽の再生は一旦停止し、スクラッチホイールから手を離すと音楽の再生が再び開始します。この動作は、ターンテーブルをエミュレートしておりDJにとっては重要な機能です。

**重要：**Xponentの電源オンにした直後に、本体のスクラッチ・ホイールに手を触れないよう注意して下さい。

12. **PFLセレクト・ボタン**  – このボタンではDJがヘッドフォン（40）で聞くデッキを選択します。

13. **マスター・ノブ** – このノブでマスター出力（2）の出力ボリュームを調整します。これはアナログアナログ回路であるためMIDIデータを生成しません。


14. **ブースノブ** – このノブは、ブース（1）の出力ボリュームを調整します。このノブはアナログ回路であるためMIDIデータを生成しません。

15. **シフトボタン**  – Torqでこのボタンは「シフト」キーの役割を持ちます。このボタンを押しながらTorqのボタンやノブを操作するとボタンやノブが本来の機能とは異なる動作をさせることができます。

16. **トラックパッド** – このトラックパッドには、マウス（ノートパソコンのトラックパッドと同様）の機能性とX/Y MIDIコントローラの2つの機能が装備されています。MIDIモードに設定すると、自動的にTorqでさらに高度なエフェクトのパラメータにマッピングするため、よりハンズオンなエフェクトのコントロールが可能になります。トラックパッドの機能は、MIDIモード・ボタン（19）によりモードを切り替えて使用します。

17. **左マウスボタン** – このボタンは、トラックパッド（16）をマウス・モードで使用する時にマウスの左ボタンとして動作します。トラックパッドをMIDIモードで使用すると、このボタンはMIDIノート情報を送信します。Torqでは、エフェクト・スロットを順に（上方へ）表示しX/Yトラックパッドを使用してコントロールするエフェクトを決定するのに使用します。



18. **右マウスボタン** – このボタンは、トラックパッド（16）をマウス・モードで使用する時にマウスの右ボタンとして動作します。トラックパッドをMIDIモードで使用すると、このボタンはMIDIノート情報を送信します。Torqでは、エフェクト・スロットを順に（下方へ）表示しX/Yトラックパッドを使用してコントロールするエフェクトを決定するのに使用します。

19. **MIDIモード・ボタン**  – このバックライト付きボタンでは、Xponentのトラックパッド（16）と左/右マウスボタン（17、18）の操作モードを切り替えます。操作モードは以下の2種類です：

- **MIDIモード：**MIDIモードのボタンが点灯すると、トラックパッドはX/Y MIDIコントローラとして動作し、左右のマウスボタンはMIDIノートのデータを送出します。Torqを使用している場合、トラックパッドを使用してエフェクトをコントロールすることができます。
- **マウス・モード：**MIDIモードのボタンが消えている時、トラックパッドと左右のマウスボタンはノートパソコンの標準的なマウスパッドと同様の動作をします。


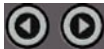

トラックパッドがMIDIモードでは、左右のマウスボタンを使用してエフェクト・スロットを順に表示することができ、現在選択されているエフェクト・スロットは赤でハイライトされます。

20. **ミキサーボタン (G, H, M, L)** – Gのボタンはチャンネルをミュート（消音）し、H、M、Lのボタンは高/中/低周波のEQ帯域をそれぞれ有効にします。

21. **Xおよび - ボタン**   – Xponentに装備されている全てのMIDIコントローラは、ユーザーにより定義することができます。これらの2種類のボタンは、各デッキのQS1とQS2のボタンに割り当てられています。TorqのMIDIラーン機能を使用してこれらのボタンに別の機能を割り当てることもできます。

22. **ミキサー・ノブ (G, H, M, L)** – G、H、M、LノブはそれぞれTorqのチャンネル・ゲインと高/中/低周波EQの設定をコントロールします。



23. **レベル・メーター** – このLEDメーターは、マスター出力 (2) のオーディオ・レベルを表示するために使用します。このメーターは、使用するDJソフトウェアで生成されるMIDI CCでコントロールされるもので、Xponentのマスター出力を実際に通過するオーディオ信号をモニタリング表示しているわけではありません。つまりDJソフトウェアから適切なMIDI CC情報を出力してこのメーターをコントロールしない限りメーターは点灯しません。
24. **デッキ・ノブ** – これらのノブは、デッキ・ボタン (25) と連動して使用しTorqのエフェクトをコントロールします。左から1つ目と2つ目のノブは、最初のエフェクトの左 (センドの量) のノブと右 (パラメータ) のノブをコントロールし、左から3つ目と4つ目のノブは2番目のエフェクトの左 (センドの量) のノブと右 (パラメータ) のノブをコントロールします。
- 注意:**バンク・セレクト・スイッチ (41) を左の位置に設定するとデッキ・ノブが上記の通り最初の2つのエフェクトをコントロールできるようにします。Torqの3番目と4番目 (VSTプラグイン) のエフェクトをコントロールするには、バンク・セレクト・スイッチを右の位置に設定します。
25. **デッキ・ボタン**  – これらの4つのトグル・ボタンは、デッキ・ノブ (24) と連動して使用しTorqのエフェクトをコントロールします。左から1つ目と2つ目のノブは、最初のエフェクトの左 (オン/オフ) ボタンと右 (パラメータ) ボタンをコントロールし、左から3つ目と4つ目のボタンは2番目のエフェクトのオン/オフ・ボタンとパラメータ・ボタンをコントロールします。
- 注意:**バンク・セレクト・スイッチ (41) を左の位置に設定するとデッキ・ノブが上記の通り最初の2つのエフェクトをコントロールできるようにします。Torqの3番目と4番目 (VSTプラグイン) のエフェクトをコントロールするには、バンク・セレクト・スイッチを右の位置に設定します。
26. **ピッチベンド/ナッジ・ボタン**  – これらのボタンは、一時的にピッチを変更したりソングの再生スピードを微調整するために使用します。
27. **PFLノブ (キュー)** – このノブは、TorqのPFLノブをコントロールしヘッドフォンのオーディオ・ソースを選択するために使用します。
28. **フォン・ノブ (フォン)** – このノブは、ヘッドフォン出力 (40) の出力を調整します。このノブは、アナログ回路であるためMIDIデータを生成しません。
29. **プログレス・メーター** – これらのメーターは、ソングの進行に伴い左から右へと点灯が進みます。これらのLEDは、MIDI CCデータにより表示される機能ですのでDJソフトウェアに依存します。適切なMIDI CCデータを送出しないDJソフトウェアを使用するとこれらのLEDは点灯しません。
30. **シーク・ボタン**  – これらのボタンは、各デッキの早送り/巻き戻し機能をコントロールします。シフトキーを押しながらいずれかのボタンを押すとソングの先頭または最後に飛びます。
31. **ユーザー・ボタン** – これらのボタンは、Torqの各デッキで以下の機能をコントロールします：

**クイック・キュー (1, 2, 3, 4, 5)** – これらのクイック・キュー・ボタンを押すと各ソングに割り当てた5箇所の位置へ即座にジャンプします。ソングの中で様々なセクション (歌やコーラスの部分等) に素早くジャンプできます。クイック・キューの割り当て方法については、Torqのユーザーガイドを参照して下さい。

**オフセット・ボタン (右矢印、左矢印)** – 2つのソングをミックスする場合、それぞれのソングのビートが一致していても、2つのソングの位相がずれていることがあります (例: 片方のデッキでキックドラムが鳴るときにもう一方のデッキではスネアドラムが鳴る等)。これらのボタンを押すと現在のデッキの再生位置を前方または後方へ1ビートずつシフトさせ位相問題を解消します (各デッキで同時にキックドラムが鳴るようになります)。


**スピード&キー・ロック (ロック・ボタン)** – このボタンは、Torqのタイム・コンプレッションとタイム・エクспанション機能の有効/無効を切り替えます。ロック・ボタンがオンの時、ソングのピッチとスピードは同時にロックされます (Torqのタイム・ストレッチングは無効になります)。このモードでは、ソングの速度を遅くすると従来のヴァイナル・レコードと同様にピッチもそれにつれて遅くなります。ロック・ボタンがオフの時、スピード・スライダ (32) はピッチを変更することなくソングのスピードを変更することができます。また、+と-のボタン (以下を参照) を使用してテンポを変更することなくソングのキーを変更することができます。


**キー・トランスポーズ (+または-)** – これらのボタンは、各デッキのソングをセミトーン単位でトランスポーズします。つまりソングのピッチを2セミトーン上げるには+ボタンを2度押します。この機能は、ロックボタン (上記) が無効の時のみ有効です。

32. **スピード・スライダ** – このスライダは、Torqの各デッキの再生スピードをコントロールします。


**注意:** Torqに搭載されたユニークな「タイム・ストレッチング」機能によりピッチを変更することなくスピードを変更することができます。従来のターンテーブルでは不可能でしたが、多くのDJにとって大変に有効な手段です。この機能により、このスライダは「ピッチ」をコントロールすると言うより「スピード」をコントロールすると言えます。


33. **チャンネル・ボリューム・フェーダ** – このスライダは、Torqの各デッキのボリュームをコントロールします。

34. **シンク・ボタン**  – これらのボタンは、各デッキの自動シンク機能の有効/無効を切り替えます。

35. **キュー**  – このボタンを使用してソングに一時的なマーカーを設置します。マーカーを設置した場所にDJは素早くアクセスできるため、トラックを早送り/巻き戻して探す必要がありません。キュー・ボタンについての詳細は、Torqのユーザーガイドを参照して下さい。

36. **ループ・コントロール・ボタン**  – これらのボタンは、Torqの各デッキに装備されたルーピング・ボタンにそれぞれ対応します。ループ・コントロール・ボタンについては、Torのユーザーガイドを参照して下さい。

37. **再生/一時停止ボタン**  – このボタンは、各デッキを再生/一時停止します。

38. **トランスフォーム・ボタン**  – このボタンは、ミキサーのトランスフォームまたは「パンチ・イン」機能をコントロールします。

39. **クロスフェーダ** – このスライダは、Torqのクロスフェーダをコントロールします。次のソングに移行する時に使うコントローラです。

## フロントパネル



40. **ヘッドフォン出力端子** – ヘッドフォンをこの1/4出力端子に接続します。この出力端子のボリュームは、フォン・ノブ (28) でコントロールします。

ヘッドフォン出力は、ブース出力やマスター出力からは独立しUSB出力3-4 (ブース出力とマスター出力はUSB出力1-2からのシグナルを受信) からのシグナルを受信します。この機能によりDJソフトウェアを使用して独立したヘッドフォンまたは「キュー」ミックスを設定することができます。この出力は、DJのみに聞こえソングをキューイング/ビートマッチングするために使用されます。

41. **バンクセレクト・スイッチ** – Xponentには、プログラム可能なメモリーバンク2系統が含まれています。このスイッチでメモリーバンクA (左の位置) とメモリーバンクB (右の位置) を切り替えます。


バンクセレクト・スイッチは、デッキ・ノブ (24) とデッキボタン (25) と関連して使用し、Torqの各デッキのエフェクトをコントロールします。上記のデッキ・ノブ (24) とデッキボタン (25) を参照して下さい。

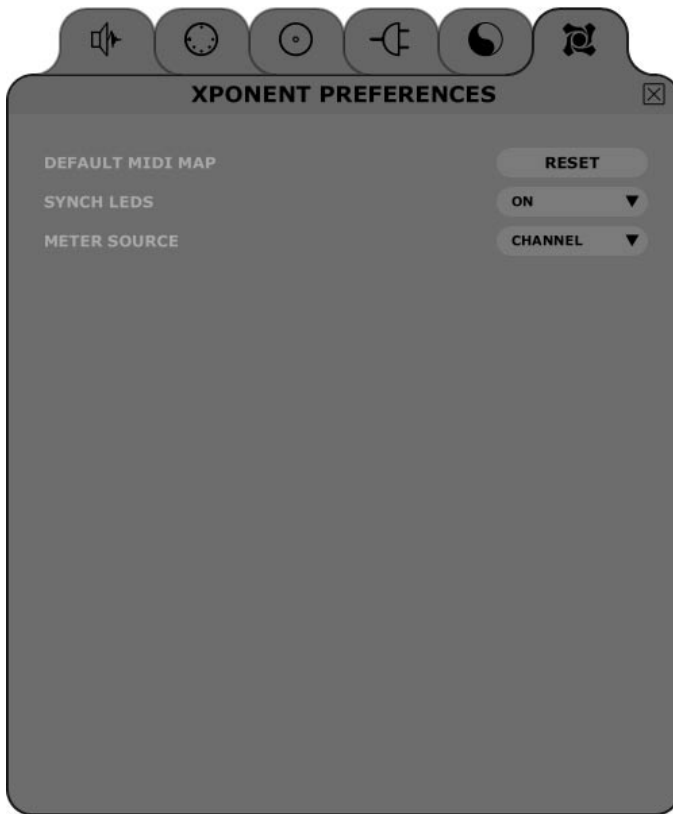
# Xponentを使用する

# 7

## TorqでXponentを使用する

Xponentには、パワフルなDJソフトウェアであるSyncroScienceのTorqが同梱されており、Xponentと即座に使用することができます。コンピュータにXponentのドライバをインストールすると、Torqは自動的にXponentを検知しボタン、ノブ、スライダ、ホイール等のコントローラを設定することなく使用することができます。

Xponentは、Torqと即座に連動しますが各コントローラの設定は好みに合わせてカスタマイズすることもできます。TorqのPreference（プリファレンス）メニューには、新たに追加されたXponent用のタブ（）にパラメータが表示されます：



### Default MIDI Map（MIDIマッピングを初期設定に戻す）

Xponentの各コントローラのMIDIの割当ては、TorqのMIDIラーン機能を使用して任意に変更することができます。このResetボタンをクリックすると、それまでに任意で設定したMIDIのマッピング情報は消去され工場出荷時の設定に戻ります。

### Synch LEDs（On/[Off]）

Onに設定すると再生している各デッキのソングのビート（テンポ）に合わせて、各デッキの各コントローラに組み込まれたバックライトが点滅します。ビートは、位相グリッドの位置に基づくもので位相グリッドの縦線がNow Line（ナウ・ライン）を通過する瞬間に点滅します。これにより各ソングのビートが視覚的に表示され両方のソングがシンクしていることを視覚的に確認することができます（両側のLEDが同時に点滅）。

### Meter Source（Channel/Master）

Channel（チャンネル）に設定すると、左のメーターは左のデッキのボリュームを表示し右のメーターは右のデッキのボリュームを表示します。Master（マスター）に設定すると、メーターはマスター出力の左右のチャンネルを表示します。

## XponentをTorq以外のソフトウェアで使用する

多くのDJソフトウェア (Ableton Live、Propellerhead Reason、Native Instruments Traktor等) には、「MIDIラーン」機能が装備されています。この機能によりXponentの各ボタン、ノブ、スライダ等にDJソフトウェアの特定のパラメータをコントロールするように素早く割り当てることができます。Xponentは、この機能を搭載するDJソフトウェアの全てをコントロールすることができます。

「MIDIラーン」機能の使用方法は各DJソフトウェアにより異なるため、この機能を使用するには各DJソフトウェアの取扱説明書を参照する必要があります。

使用するDJソフトウェアにMIDIラーン機能が搭載されていなくても、DJソフトウェアの機能をXponentのノブ、ボタン、ホイール、スライダ等で生成される特定のMIDI CCデータでコントロールできるように手動で割り当てることができる場合があります。使用するDJソフトウェアの取扱説明書を参照してこの操作が可能かどうかを確認して下さい。

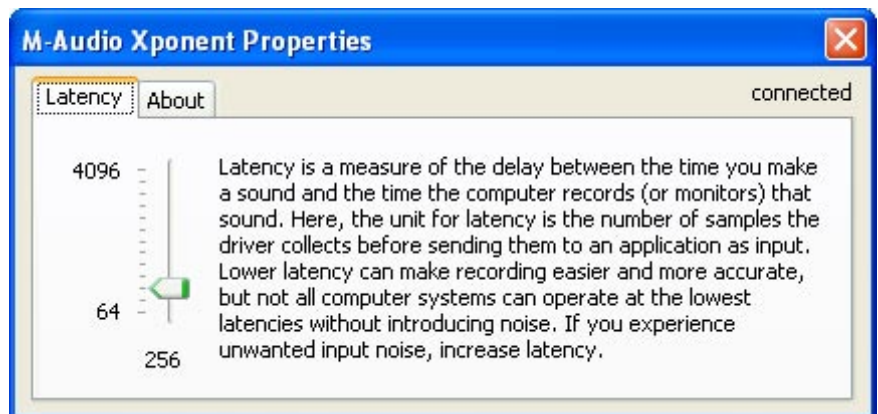
使用するDJソフトウェアが任意のMIDI CCデータを手動で割り当てることができる場合、Xponentの各ノブ、ボタン、ホイール、スライダにより生成されるMIDI CCデータのフル・リストについては、付録Aを参照して下さい。

## Xponentのコントロール・パネル

Xponentのコントロールパネルはシンプルで簡単に使用できるようデザインされています。

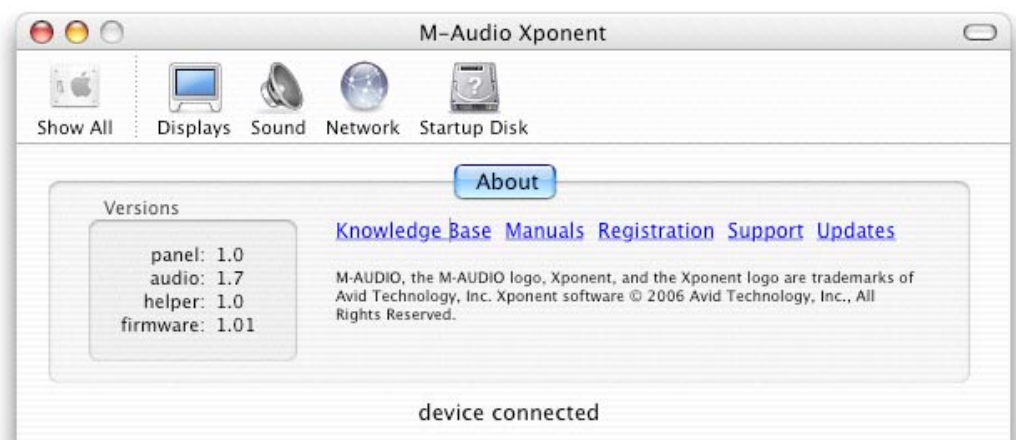
### PC :

PCで使用する場合、Xponentのオーディオのバッファ・サイズは「Latency (レイテンシー)」のタブに表示され、オーディオ・ドライバやデバイスのファームウェア・バージョン等のその他の情報は「About (アバウト)」タブに表示されます。オーディオのバッファ・サイズを調整するには、スライダをドラッグして「Apply」のボタンをクリックします。DJソフトウェアが動作している間は、このパラメータを変更することはできません。



### Mac :

Macで使用する場合、コントロール・パネルにはオーディオ・ドライバ、デバイス・ファームウェア等のバージョン番号が表示され、M-Audioのウェブサイトの各セクションへのリンクが含まれます。オーディオのバッファ・サイズは、各DJソフトウェアで変更する必要があります。



## トラブルシューティング

## 8

Xponentは、プロフェッショナルなクオリティのUSB MIDIコントローラ/オーディオ・インターフェイスで様々な環境においてテストが重ねられています。しかしながら、徹底的なテストにも関わらず特定の条件下では、予想がつかない事態が生じる場合もあります。このセクションでは、よくある共通の問題について解決策を提供します。

初めに、Xponent使用時にコンピュータへ複数のUSB機器を接続するのは出来る限り避けることを推奨します。USBは、オーディオ・ソフトウェアに適した信頼できるプロトコルですが、オーディオ/マルチメディア・ソフトウェアはコンピュータのプロセッサやUSBバスに相当な負担をかけます。一つのUSB端子に複数の機器を接続することは理論的に可能ですが、それによりお使いのハードウェアやソフトウェアに複雑な問題を引き起こすことがあります。

**同時に接続されているUSB機器の数を減らしてもXponentでの問題が解決しない場合は、以下の項目を確認して下さい：**

- Xponentのドライバが適切にインストールされていることを確認します。
  - Windows XPの場合、コントロール・パネルからシステムのアイコン（カテゴリー・ビューではパフォーマンスとメンテナンスの下）をダブルクリックします。
  - ハードウェアのタブを選択しデバイス・マネージャのボタンをクリックします。
  - サウンド、ビデオ、ゲーム・コントローラの横にある「+」をクリックし、リストから「M-Audio Xponent」を検索します。製品名の横に「?」または「!」マークが付いていれば、ドライバ・ソフトウェアを再インストールする必要があります。
- DJソフトウェアがXponentを使用するように設定されていることを確認します。DJソフトウェアのコントロール・パネルを起動し、ソフトウェアがXponentにより生成されるMIDIデータを受信しオーディオ信号をXponentへ送信するよう設定されていることを確認します。
- USB/オーディオ・ケーブルが適切に接続され、本体が電源を供給されていることを確認します。
- USBハブを使用している場合、XponentをコンピュータのUSB端子へ直接接続して問題が解決するか確認します。

**XponentでDJソフトウェアをコントロールできるのに、演奏中にクリックやポップ等のノイズが発生する：**

- 入力レベルと出力レベルが高すぎないことを確認します。レベルが高過ぎるとディストーションやクリッピングの原因になります。
- オーディオ・インターフェイスのバッファ・サイズを大きくしてみます。バッファ・サイズを大きくすると、オーディオのレイテンシーは高くなりますが、システム・パフォーマンスは向上し多くのクリッキングやポップのノイズの問題は解消されます。Xponentのオーディオ出力を使用している場合、バッファ・サイズを変更する方法については本ユーザーガイドの「Xponentのコントロールパネル」のセクションを参照して下さい。DJソフトウェアに別のオーディオ・インターフェイスを使用している場合は、オーディオ・インターフェイスの取扱説明書を参照して下さい。
- 全てのオーディオ・ケーブルが良好な状態で適切に接続されていることを確認します。接続不良、シールド線不良、その他ケーブルに問題があればポップやクリックを含む様々な問題を引き起こす可能性があります。

それでも問題が解消しない場合は、DJソフトウェアの取扱説明書を参照して下さい。

## 付録A : Xponent MIDI CCデフォルト

## 9

コントロール	セクション	メッセージタイプ	MIDI Channel	MIDI Note/CC
Touch button	Left	NOTE ON/OFF	1	21
Headphone button	Left	NOTE ON/OFF	1	20
Large "X" button	Left	NOTE ON/OFF	1	18
Large "." button	Left	NOTE ON/OFF	1	19
< button	Left	NOTE ON/OFF	1	16
> button	Left	NOTE ON/OFF	1	17
Deck 1 button	Left	NOTE ON/OFF	1	12
Deck 2 button	Left	NOTE ON/OFF	1	13
Deck 3 button	Left	NOTE ON/OFF	1	14
Deck 4 button	Left	NOTE ON/OFF	1	15
1 button	Left	NOTE ON/OFF	1	23
2 button	Left	NOTE ON/OFF	1	24
3 button	Left	NOTE ON/OFF	1	25
4 button	Left	NOTE ON/OFF	1	26
5 button	Left	NOTE ON/OFF	1	27
< button	Left	NOTE ON/OFF	1	28
>  button	Left	NOTE ON/OFF	1	29
Lock button	Left	NOTE ON/OFF	1	30
Small "+" button	Left	NOTE ON/OFF	1	31
Small "." button	Left	NOTE ON/OFF	1	32
<< button	Left	NOTE ON/OFF	1	33
>> button	Left	NOTE ON/OFF	1	34
Cue button	Left	NOTE ON/OFF	1	35
Play/Pause button	Left	NOTE ON/OFF	1	36
Loop 1 button	Left	NOTE ON/OFF	1	37
Loop 2 button	Left	NOTE ON/OFF	1	38
Loop 4 button	Left	NOTE ON/OFF	1	39
Loop 8 button	Left	NOTE ON/OFF	1	40
Loop In button	Left	NOTE ON/OFF	1	41
Loop On/Off button	Left	NOTE ON/OFF	1	42
Loop Out button	Left	NOTE ON/OFF	1	43
Touch button	Right	NOTE ON/OFF	2	21
Headphone button	Right	NOTE ON/OFF	2	20
Large "X" button	Right	NOTE ON/OFF	2	18
Large "." button	Right	NOTE ON/OFF	2	19
< button	Right	NOTE ON/OFF	2	16
> button	Right	NOTE ON/OFF	2	17
Deck 1 button	Right	NOTE ON/OFF	2	12
Deck 2 button	Right	NOTE ON/OFF	2	13
Deck 3 button	Right	NOTE ON/OFF	2	14
Deck 4 button	Right	NOTE ON/OFF	2	15
1 button	Right	NOTE ON/OFF	2	23
2 button	Right	NOTE ON/OFF	2	24

## 付録A : Xponent MIDI CCデフォルト (続き)

コントロール	セクション	メッセージタイプ	MIDI Channel	MIDI Note/CC
3 button	Right	NOTE ON/OFF	2	25
4 button	Right	NOTE ON/OFF	2	26
5 button	Right	NOTE ON/OFF	2	27
< button	Right	NOTE ON/OFF	2	28
>  button	Right	NOTE ON/OFF	2	29
Lock button	Right	NOTE ON/OFF	2	30
Small "+" button	Right	NOTE ON/OFF	2	31
Small "-" button	Right	NOTE ON/OFF	2	32
<< button	Right	NOTE ON/OFF	2	33
>> button	Right	NOTE ON/OFF	2	34
Cue button	Right	NOTE ON/OFF	2	35
Play/Pause button	Right	NOTE ON/OFF	2	36
Loop 1 button	Right	NOTE ON/OFF	2	37
Loop 2 button	Right	NOTE ON/OFF	2	38
Loop 4 button	Right	NOTE ON/OFF	2	39
Loop 8 button	Right	NOTE ON/OFF	2	40
Loop In button	Right	NOTE ON/OFF	2	41
Loop On/Off button	Right	NOTE ON/OFF	2	42
Loop Out button	Right	NOTE ON/OFF	2	43
Left Gain button	Middle	NOTE ON/OFF	1	11
Left High button	Middle	NOTE ON/OFF	1	10
Left Mid button	Middle	NOTE ON/OFF	1	9
Left Low button	Middle	NOTE ON/OFF	1	8
Right Gain button	Middle	NOTE ON/OFF	2	11
Right High button	Middle	NOTE ON/OFF	2	10
Right Mid button	Middle	NOTE ON/OFF	2	9
Right Low button	Middle	NOTE ON/OFF	2	8
Left Sync button	Middle	NOTE ON/OFF	1	2
Right Sync button	Middle	NOTE ON/OFF	2	2
Left Transform button	Middle	NOTE ON/OFF	1	7
Right Transform button	Middle	NOTE ON/OFF	2	7
Left Mouse button	Middle	NOTE ON/OFF	3	0
Right Mouse button	Middle	NOTE ON/OFF	3	1
Left Shift Button	Middle	NOTE ON/OFF	1	44
Right Shift Button	Middle	NOTE ON/OFF	2	44
Scratch Wheel--touch	Left	NOTE ON/OFF	1	22
Scratch Wheel--touch	Right	NOTE ON/OFF	2	22
Foot Pedal	N/A	NOTE ON/OFF	3	11
Touch Pad Touch	N/A	NOTE ON/OFF	3	12
Deck 1 knob	Left	CC-ABSOLUTE	1	12
Deck 2 knob	Left	CC-ABSOLUTE	1	13
Deck 3 knob	Left	CC-ABSOLUTE	1	14
Deck 4 knob	Left	CC-ABSOLUTE	1	15
Deck 1 knob	Right	CC-ABSOLUTE	2	12
Deck 2 knob	Right	CC-ABSOLUTE	2	13
Deck 3 knob	Right	CC-ABSOLUTE	2	14

### 付属A : Xponent MIDI CCデフォルト (続き)

コントロール	セクション	メッセージタイプ	MIDI Channel	MIDI Note/CC
Deck 4 knob	Right	CC-ABSOLUTE	2	15
Pitch Slider	Left	PITCHBEND	1	---
Left Low knob	Middle	CC-ABSOLUTE	1	8
Left Mid knob	Middle	CC-ABSOLUTE	1	9
Left High knob	Middle	CC-ABSOLUTE	1	10
Left Gain knob	Middle	CC-ABSOLUTE	1	11
Pitch Slider	Right	PITCHBEND	2	---
Right Low knob	Middle	CC-ABSOLUTE	2	8
Right Mid knob	Middle	CC-ABSOLUTE	2	9
Right High knob	Middle	CC-ABSOLUTE	2	10
Right Gain knob	Middle	CC-ABSOLUTE	2	11
Left Volume slider	Middle	CC-ABSOLUTE	1	7
Right Volume slider	Middle	CC-ABSOLUTE	2	7
Cue knob	Middle	CC-ABSOLUTE	3	13
Crossfader	Middle	CC-ABSOLUTE	3	7
Expression Pedal	Middle	CC-ABSOLUTE	3	10
Scratch Wheel--rotate	Left	CC-RELATIVE	1	22
Scratch Wheel--rotate	Right	CC-RELATIVE	2	22
Touchpad X axis	Middle	CC-ABSOLUTE	3	8
Touchpad Y axis	Middle	CC-ABSOLUTE	3	9



## 付録B：トラックパッドを使用してTorqのエフェクトをコントロールする

# 10

XponentのMIDIモード・ボタン（19）を有効にすると、トラックパッド（16）を使用してTorqのエフェクトのパラメータをコントロールすることができます。基本的には、X軸の方向（左右）に指でトラックパッドを移動すると画面上の任意のエフェクトのノブをコントロールし、Y軸（上下）に指でトラックパッドを移動するともう一つのノブをコントロールすることができます。しかしながら、特定のエフェクトについてはTorqのユーザーインターフェイスでは使用できない非表示のパラメータにXponentからアクセスすることもできます。更に、エフェクトの中にはトラックパッドを指で触れたり指を離したりするだけで有効か無効かを切り替えられる（この場合は指でトラックパッドを移動してもエフェクトは変化しません）物もあります。

MIDIモード・ボタンが有効の時、左のマウスボタン（17）と右のマウスボタン（18）は、クリックすることでエフェクト・スロットを順に上下へ移動しトラックパッドを使用してコントロールするエフェクトを選択することができます。

**Xponentのトラックパッドでは、Torqのエフェクトを以下のように操作することができます：**

**[注意]** Torqのエフェクトについての詳細はTorqユーザーガイドを参照して下さい。

### ディレイ：

**X軸：**ディレイのフィードバック・ノブをコントロールします。トラックパッドの左端から指で右側へ移動した分だけフィードバックの量が増加します。

**Y軸：**センドの量を調整するノブをコントロールします。トラックパッドの下から指で上へ移動した分だけ聞こえてくるエフェクトの量が増加します。

### リバーブ：

**X軸：**リバーブ時間を調整するノブをコントロールします。トラックパッドの左端から指で右側へ移動した分だけリバーブ時間が増加します。

**Y軸：**センドの量を調整するノブをコントロールします。トラックパッドの下から指で上へ移動した分だけ聞こえてくるエフェクトの量が増加します。

### フランジャー：

**X軸：**フランジャー・ディレイのノブをコントロールします。トラックパッドの左端は画面のノブを一番左に回した時に相当します。指を右側へ移動した分だけノブが右に回ります。

**Y軸：**エフェクトのフィードバックの量（非表示のパラメータです）をコントロールします。トラックパッドの下に指を置くとフィードバックは発生しません。指を上へ移動した分だけフィードバックの量が増加します。

### フェーザー：

このエフェクトは上記のフランジャーのエフェクトと同様の動作をします。

## デュアル・フィルタ：

**X軸：**フィルタのカットオフ周波数（パラメータ・ノブ）をコントロールします。トラックパッドの左端に指を置くとパラメータはノブを一番左に回した状態です。この位置では、エフェクトはローパス・フィルタと同様の効果があり、関連するデッキから高周波のサウンドをほぼ全て取り除きます。トラックパッドで指を右側へ移動した分だけカットオフ周波数が増加します。指がパッドの中心より右側へ移動すると、ローパス・フィルタはシームレスにハイパス・フィルタへとシフトします。つまりトラックパッドの右端まで指を移動させると、ほぼ全ての低周波サウンドは取り除かれます。

**Y軸：**デュアル・フィルタのレゾナンス（非表示のパラメータです）をコントロールします。トラックパッドの下に指を置くとレゾナンスの量は最小（画面のノブが一番左端にまわした状態）です。トラックパッドで指を上へ移動した分だけフィルタのレゾナンスは増加します。

## ディストーション：

### サチュレーション・モード

**X軸：**エフェクトの色をコントロール（非表示のパラメータです）します。トラックパッドの左端に指を置くとエフェクトのノブを一番右に回した状態です。トラックパッドの左端から指で右側へ移動した分だけノブが右に回ります。

**Y軸：**ドライブのノブをコントロールします。トラックパッドを下から上へ指を移動した分だけドライブの量が増加します。

### サンプリングレート・モード

**X軸：**ビット・デプス（非表示のパラメータです）をコントロールします。トラックパッドの左端に指を置くとビットデプスは最大（エフェクトなし）になります。右側へ指を移動すると4ビットまでビット・デプスが減少します。

**Y軸：**サンプリングレートのノブをコントロールします。トラックパッドの上端に指を置くとサンプリングレートが最大（エフェクトなし）になります。下へ指を移動するにつれてサンプリングレートが減少します。

## ストロボ：

**X軸：**ストロボのレートを調整するノブをコントロールします。トラックパッドで指を右側へ移動した分だけストロボのエフェクトの周波数（スピード）が増加します。

**Y軸：**ウエット/ドライのミックスのノブをコントロールします。トラックパッドで指を下から上へ移動した分だけストロボのエフェクトの間こえる量が増加します。

## リバース：

トラックパッドに触れるとリバース（逆）エフェクトが有効になり、トラックパッドから指を離すとリバースのエフェクトが無効になります。

トラックパッドでX軸またはY軸の方向に指を動かしてもエフェクトに変化はありません。

## ブレイク：

トラックパッドに触れるとブレイクのエフェクトが有効になり、トラックパッドから指を離すとブレイクのエフェクトが無効になります。

トラックパッドでX軸またはY軸の方向に指を動かしてもエフェクトに変化はありません。

## リピート：

**X軸：**リピートのサイズを調整するノブをコントロールします。トラックパッドで指を右側へ移動するとリピートの速度が増加（リピートが短くなる）します。

**Y軸：**ウエット/ドライのミックスのノブをコントロールします。トラックパッドで指を上へ移動すると聞こえるリピートのエフェクトの量が増加します。

## 技術資料

## 11

**警告：**静電放電、高速過渡、伝導RF干渉等により、本機器が誤作動する場合があります。そのような場合には、本機器の接続を外した後、再接続し通常の動作を回復します。

**注意：**本機器は家庭用または事業用として使用するためにFCC基準に適合するよう検査されています。製造者に認可なく変更/改良等を行った場合には、使用者がこの機器を操作する権利が無効になる場合があります。

**注意：**本機器はFCC規則、第15章に準拠するClass Bデジタル機器の制限に適合するよう検査されています。これらの制限は、住宅への設置において電磁干渉障害が生じないよう適正な保護を提供することを目的としています。本製品の使用により電磁波が発生し外部に電磁波が放射することがあります。指示通りに設置/使用しない場合には、電波通信に有害な影響を与えることがあります。ラジオまたはテレビの受信において、本機器の電源のオン、オフにより判断できる有害な干渉障害が生じた場合、以下に挙げる方法を1つ、またはそれ以上を試行して障害を是正することを推奨します。

- 受信アンテナの位置を再調整するか、移動する。
- 本機器と干渉障害を受けた受信機の距離を引き離す。
- 干渉障害を受けた受信機とは異なる電源コンセントに本機器を接続する。
- 製造元に問い合わせるか、経験豊富なラジオ/テレビ技術者に相談する。

**ASIO**はSteinbergのソフトウェア及びハードウェアの登録商標です。

**VST**はSteinbergのソフトウェア及びハードウェアの登録商標です。

## 製品保証

## 12

**保証規定**

エムオーディオでは安全上のご注意に基づいて適切に使用されている場合に限り、本製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間となり修理は無償で行います。しかしながら、不適切な使用方法による破損の場合、ご購入者が所有していない場合、エムオーディオでのユーザー登録がお済みでない場合などは保証の対象となりません。但し、電源アダプタやケーブルなどの付属品は、適切な使用の結果不具合が生じた場合でも保証対象には含まれません（初期不良の場合は除く）。お使いの製品に対応する保証規定は[www.m-audio.com/warranty](http://www.m-audio.com/warranty)でご覧下さい。

エムオーディオへ製品を送付する場合には、事前にエムオーディオのRA (Return Authorization) 番号を取得する必要があります。製品のRA番号を取得するには、エムオーディオへご連絡頂ければ、エムオーディオのカスタマーサービスが症状などをお伺いしエムオーディオへ製品の送付が必要と判断した場合にRA番号を発行させていただきます。製品のRA番号を取得後、具体的な症状や送付理由を書面に記述し、製品を保護する安全な梱包を施した上、外装パッケージにRA番号を明記しM-Audioまで送付下さい。製品の修理には発送時の送料、返却時の送料と発生し得る手数料はご購入者の負担となります（初期不良の場合は除く）。

**ユーザー登録**

エムオーディオへお問い合わせ頂く場合には、エムオーディオでのユーザー登録を完了しなければ製品保証や技術的なサポートを受けることができません。ユーザー登録を行うには、次の2つの方法があります。環境に合わせた方法でユーザー登録を行って下さい。1.) コンピュータで（一般的なWebブラウザ）エムオーディオWebサイトへアクセスできる方：エムオーディオ オンラインユーザー登録ページ<http://web.m-audio.jp/register/>にて、必要事項を入力して送信して下さい。2.) 携帯電話でエムオーディオWebサイトへアクセスできる方：エムオーディオ モバイルサイトのオンラインユーザー登録ページ<http://web.m-audio.jp/mobile/>にて、必要事項を入力して送信して下さい。（注意：ユーザー登録完了の御案内は行っておりませんのでご了承下さい。）



**警告：**本製品には鉛を含む化学物質が含まれます。癌や出生異常、その他生殖への危害の原因となる物質として米国カリフォルニア州で知られています。 **ご使用の後は手を洗って下さい。**

© 2007 Avid Technology, Inc. 無断複写、転載を禁じます。製品の特徴、仕様、システム環境条件、在庫状況は予告無く変更になる場合があります。Avid、M-Audio、Torq、XponentはAvid Technology, Inc.の商標または登録商標です。ここに記載されているその他全ての商標または登録商標はそれぞれの所有者に属します。

<b>M-Audio USA</b> 5795 Martin Rd., Irwindale, CA 91706	
<b>Technical Support</b>	
web:	www.m-audio.com/tech
tel (pro products):	(626) 633-9055
tel (consumer products):	(626) 633-9066
fax (shipping):	(626) 633-9032
<b>Sales</b>	
e-mail:	sales@m-audio.com
tel:	1-866-657-6434
fax:	(626) 633-9070
<b>Web</b>	www.m-audio.com

<b>M-Audio U.K.</b> Floor 6, Gresham House, 53 Clarendon Road, Watford WD17 1LA, United Kingdom	
<b>Technical Support</b>	
e-mail:	support@maudio.co.uk
tel:(Mac support):	+44 (0)1765 650072
tel:(PC support):	+44 (0)1309 671301
<b>Sales</b>	
tel:	+44 (0)1923 204010
fax:	+44 (0)1923 204039
<b>Web</b>	www.maudio.co.uk

<b>M-Audio France</b> Floor 6, Gresham House, 53 Clarendon Road, Watford WD17 1LA, United Kingdom	
<b>Renseignements Commerciaux</b>	
tel :	0 810 001 105
e-mail :	info@m-audio.fr
<b>Assistance Technique</b>	
PC :	0 820 000 731
MAC :	0 820 391 191
<b>Assistance Technique</b>	
e-mail :	support@m-audio.fr mac@m-audio.fr
fax :	+33 (0)1 72 72 90 52
<b>Site Web</b>	www.m-audio.fr

<b>M-Audio Germany</b> Kuhallmand 34, D-74613 Ohringen, Germany	
<b>Technical Support</b>	
e-mail:	support@m-audio.de
tel	+49 (0)7941 - 9870030
fax:	+49 (0)7941 98 70070
<b>Sales</b>	
e-mail:	info@m-audio.de
tel:	+49 (0)7941 98 7000
fax:	+49 (0)7941 98 70070
<b>Web</b>	www.m-audio.de

<b>M-Audio Canada</b> 1400 St-Jean Baptiste Ave. #150, Quebec City, Quebec G2E 5B7, Canada	
<b>Technical Support</b>	
e-mail:	techcanada@m-audio.com
phone:	(418) 872-0444
fax:	(418) 872-0034
<b>Sales</b>	
e-mail:	infocanada@m-audio.com
phone:	(866) 872-0444
fax:	(418) 872-0034
<b>Web:</b>	www.m-audio.ca

<b>M-Audio Japan</b> アビッドテクノロジー株式会社   エムオーディオ事業部 : 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 2-18-10 Avid Technology K.K. : 2-18-10 Marunouchi, Naka-Ku, Nagoya, Japan 460-0002	
<b>カスタマーサポート (Technical Support)</b>	
e-mail :	win-support@m-audio.jp
e-mail (Macintosh 環境専用):	mac-support@m-audio.jp
tel :	052-218-0859 (10:00~12:00/13:00~17:00)
<b>セールスに関するお問い合わせ (Sales)</b>	
e-mail:	info@m-audio.jp
tel:	052-218-3375
fax:	052-218-0875
<b>Web:</b>	www.m-audio.jp